

---

# 真恋姫・異界からの三(?)強者

リュアナ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

真恋姫・異界からの三（？）強者

### 【Nコード】

N0905Y

### 【作者名】

リュアナ

### 【あらすじ】

Fateと月姫を土台としたオリキャラが恋姫の世界で大暴れしちゃいます。

この作品は友人とのコラボ作品です。

## オリキャラ紹介（前書き）

多数作品とのコラボなので、ご注意ください。

## オリキャラ紹介

オリキャラ紹介

ギルガメッシュ

現代では宮田涼と言う青年、聖フランチェスカで学生として生きていたが夜の巡回で不審者と遭遇し、その祭敵のもたらした鏡が原因でパラレルワールドに行ってしまう。

平行世界で神と出会いその時に、英雄王ギルガメッシュの能力や容姿、その他異世界の武器d m c、などあらゆる武器を使いこなす（真名解放可）

ローウェン・ハート

直視の魔眼、黒剣、不死の肉体…などを完璧に使いこなす教会公認の吸血鬼討伐用混吸血鬼

その中には、鬼・吸血鬼・悪魔・人・魔神…などと言った異形な血が混合している

今回、任務中ターゲットと戦闘の時宝玉が割れパラレルワールドに行ってしまう

## 1話

月夜に照らされる影、夜風に揺れる髪

学園のベンチに腰を下ろしている男がこの学園…聖フランチャスカ  
学園の風紀委員長の宮田涼である  
今は夜間警備の巡回中な訳だが

北郷「…で、なんで俺まで風紀委員の仕事に手伝わされてんの？」

この男は北郷一刀、教室に忘れ物をして夜抜けした所俺の巡回に見  
つかり捕獲された訳だ

「しょうがないだろ？ルール破って抜け出したのはお前だぞ？まあ、  
学園の平和を守るため今日1日ぐらい付き合えや」

自販機に小銭を入れてボタンを押す

自販からガシャン！と缶コーヒーが落ちる、俺はそれを一刀に投げ  
渡した

一刀「おっと！…サンキュー、だけどよくこの御時世不審者なんて  
そうそう居ないだろ？」

「そうとは限らないぜ？」

「此処には歴史資料館とか真新しい物が沢山ある、歴史資料館の物  
なんて物が良ければ軽く数百万は下らない代物だ、頭の働く奴は狙  
う馬鹿もいるだろうよ」

そう言っただけ俺は大通りへと歩き出し

その歩幅に揃え一刀も歩き出す

一刀「へ〜…まあ今日に限って不審者遭遇なんて上手い話はないだろうな」

「そうとも限らないよ？」

一刀「は？」

「実はさっき全身白の白装束を見てさ、歴史資料館の方に向かったから…もしかしたら此処通るんじゃない？」

大通りから歴史資料館までは一直線  
必ず通ると予測しての計算だ

一刀「じゃ！なんで捕まえないんだよ！風紀委員長何してんの！？」

「良く考える馬鹿、歴史資料館に奴が入って行って警報装置が反応したか？してないだろ」

横目で歴史資料館を見る  
厳重体制が引かれてる夜の歴史資料館から警報が作動してないと言  
う事はかなりのやり手だろ

「追っかけて逆に俺達が警報鳴らしたら洒落にならねーよ」

それに

「お出ましみたいだからよ」

一刀「！！？」

俺達の真っ正面には全身白装束の男が鏡を抱えていた

「はっけくん、その鏡置いて行ってもらおうか」

「???」「どけ」

「それは無理だ、風紀委員として不審者を見過ごすなんて出来ないからな…無理ならば」

拳を握り締め構える

「消えてもらおうか泥棒」

## 1、5話

黒々と覆い尽くす闇、全てが闇に飲み込まれた漆黒の中でそびえ立つ木々

真夜中の森は恐怖のみ、誰かに見られている様な視線、不意に襲われそうな恐怖感  
そんな森の中で2人の影

「さうて、鬼ごっこは終わりだ」

一歩踏み出し詰める迷いのない足音

「第一俺から逃げきれると？教会もナメられたもんだな…なあ于吉」

于吉「…やはり貴方から逃げるのは無理がありましたか」

巨木の後ろから姿を表したのは長身でメガネを掛けた于吉と呼ばれる男

「お前が奪ったその宝玉…貴様なら知っているはずだ」

于吉の手の中で輝きを放ち続ける宝玉は怪しくも美しい赤色の光を放っている

于吉「…血鮮の宝玉」

「そうだ！！それは俺達真祖の血が年月を経て固まった血の玉だ」

于吉「使用には死者を操る力を与える…我々にはコレが必要なのですよ、そして使いこなす自信もあります」

「何に使うのか知らんが返さないのならば俺は第一級危険物としてお前を拘束するまで」

両手に6本の黒剣を挟む

于吉「私も此处で捕まる訳にはいかないのですよ…あの人の野望の為にも！」

## 2話

「……き……ろ、お……ろ」

重い瞼の裏側で声がする、俺に呼び掛けてるのは分かるのだがどうにも頭が回らない

第一どうなった？

俺は不審者を排除すべく戦闘を行った…相手もなかなかの体術使い手の上、手こず…いや鏡を持っていた分奴は片手両脚だった、そう考えると奴の方が数段上か

その後俺の放った後ろ回し蹴りが鏡に直撃

鏡が割れたと思ったたらいきなり閃光を放って…みたいな感じが…

そこまで整理すると段々と瞼が軽くなってきた

「……」やっと起きたか馬鹿者が」

開いた先には叔父さん？が1人

「……貴方は？ていうか此処は……」

起きて目の前に居たのはなんとも変哲もない爺さん

神「私はこの世界の神とも言える存在にして」

「あつそゝてか広い場所ですねゝ辺り一面真っ白」

神「話聞いとらんじゃろ若いの」

「いやいや、良く考えて？分かるでしょ現実的に、いきなり神なんて言われても実感ないだろ？俺からしたら近所の叔父さん並の実感しかないからね」

だがずっと此処に居ても帰れないと意味がない  
俺は爺さんを見据えて座った

「で、仮に爺さんが神だしよう、神様俺はどうしたら帰れる？」

爺さんはわざとらしく咳払いをし持っている杖で床を叩いた

神「そなたに1つ頼みがある、それが終えたら世界に戻そう」

おいおい、選択権は無いですか？いきなり過ぎるんじゃないですか？

神「無論丸腰で放り出すと言う訳ではない貴様の願いを1つ具現化してみせよう」

「具現化？」

神「そうだ、貴様の想像した能力、容姿などをそのまま映してやろう」

「…なるほど面白い、なら俺に王の力を！世界最古の王ギルガメッシュに等しい王の力を！」

神「王…か、それもまた選択肢…ならば与えよう！来るべき日を迎える為に！！」

辺り一面が黒へと変わって行く、爺さんの姿も徐々に飲み込まれて行った

神「その世界の運命を変えてみせよ！貴様の王の力で！！」

闇は全てを飲み込み白を黒に染め意識は遠退いて行った

神「頼んだぞ若僧…もう私は後に引けぬからな」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0905y/>

---

真恋姫・異界からの三(?)強者

2011年11月28日00時47分発行